科目名			担当教員	
ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ			竹之内　章代（上）・相場　恵（下）	
科目コード	科目単位	スクーリング単位	履修方法	配当年次
CC3096	2	1	RorSR（講義）	2年以上
履修登録条件		「ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録できます。		
生成AI利用レベル		レポート　：　C	試験（スクーリング含む）　：　C	

科目の概要

■科目の内容

スクーリングや印刷教材による授業で、多様化・複雑化する課題に対応するためのソーシャルワークの様々な理論と方法について、ここでは社会資源の活用、調整、開発の方法と、ネットワークの形成及びコーディネーションの方法等について学ぶ。具体的には、

1）多様化・複雑化する課題に対応するためのソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。

2）地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する。

■到達目標

1）多様化・複雑化する課題に対応するためのソーシャルワークの様々な理論と方法を説明できる。

2）地域における社会資源の開発やネットワークの形成、コーディネーションやソーシャルアクションについてその方法について具体的に説明できる。

3）個別の事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を具体的に展開できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「俯瞰的な分析力」「倫理的実践力」「開発・創造力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価 40%＋スクーリング評価 or 科目修了試験 60%

■教科書・参考図書

【教科書】（「ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座［専門科目］6 ソーシャルワークの理論と方法（社会専門）』中央法規出版、2021 年

※「ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

（スクーリング時の教科書）上記テキストは必ず持参してください。テキストや配付資料をもとに講義を実施します。

【参考図書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座［専門科目］7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規出版、2021 年

■事前に学習してほしい科目

「ソーシャルワークの基盤と専門職」「ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）」「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」を学習しておくことが望ましい。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法について、講義を通じて確認してください。とくに、社会資源の活用の意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションなど、マクロレベルに働きかけるアプローチについて理解を深めてください。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	ソーシャルワークにおける援助関係の意義と概念を理解する	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲで学んだ専門的援助関係について確認する。
2	ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発①	1 社会資源の活用・調整・開発 ・社会資源の活用・調整・開発の意義、目的、方法、留意点 ・ニーズの集約、提言、計画策定、実施、評価
3	ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発②	2ソーシャルアクション ・ソーシャルアクションの意義、目的、方法、留意点
4	ネットワークの形成①	1 ネットワーキング ・ネットワーキングの意義、目的、方法、留意点 ・セーフティネットの構築とネットワーキング ・家族や住民、サービス提供者間のネットワーキング ・重層的な範囲（ミクロ・メゾ・マクロ）におけるネットワーキング ・多様な分野の支援機関とのネットワーキング
5	ネットワークの形成②	1 コーディネーション ・コーディネーションの意義、目的、方法、留意点
6	アウトリーチの意義と方法	1 アウトリーチ ・アウトリーチの意義、目的、方法、留意点 ・アウトリーチを必要とする対象 ・ニーズの掘り起こし
7	事例研究	1 ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際 ・地域支援の実際として ・地域が抱える課題 ・多機関協働 ・地域住民との協働 ・地域アセスメント
8	まとめと振り返り	講義全体を振り返り、学びの確認を行う
9	スクーリング試験	試験により自己の理解の到達度を確認する

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講議の進め方

テキストや配付（配信）資料をもとに講義を進めます。

■スクーリング評価基準

事前学習及びスクーリングで学んだ内容から出題します（持ち込み不可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

テキストのスクーリングの内容に該当する部分を事前に読んでから講義に臨んでください。

レポート学習

■在宅学習 15 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	ソーシャルワークにおける援助関係とは	ソーシャルワークにおける援助関係の意義と概念を理解する	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲで学んだ内容の確認をしてください。
2	ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発①（第４章）	1 社会資源の活用・調整 ・社会資源の活用・調整の意義、目的、方法、留意点	社会資源の活用や調整・開発が、ソーシャルワーク実践の一つと特徴づけられていることを理解しましょう。その意義や目的を確認し、具体的な方法について、事例（第１章３節）と参考にしながら理解出来ると良いでしょう。
3	ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発②（第４章）	2 社会資源の活用・調整・ニーズの集約、提言、計画策定、実施、評価	社会資源の活用や調整・開発が、ソーシャルワーク実践の一つと特徴づけられていることを理解しましょう。その意義や目的を確認し、具体的な方法について、事例（第１章３節）と参考にしながら理解出来ると良いでしょう。
4	ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発③（第４章）	3 ソーシャルワーク実践と社会資源 ・ソーシャルワーク実践における社会資源とは ・社会資源の開発の意義、目的、方法、留意点	社会資源の活用や調整・開発が、ソーシャルワーク実践の一つと特徴づけられていることを理解しましょう。その意義や目的を確認し、具体的な方法について、事例（第１章３節）と参考にしながら理解出来ると良いでしょう。
5	ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発④（第４章）	4 社会資源開発の様々な方法 ・社会資源開発の方法 ・サービスの改善 ・社会資源開発に必要なソーシャルワーカーのスキルとは	社会資源開発の方法を学びます。ミクロからメゾ、マクロへの連続面でニーズを捉え、それらを社会資源開発の実践として展開するためのスキルとは何かを考えて見ましょう。事例（第１章第３節）を参照しながら学んでください。

6	ネットワークの形成① （第３章）	１ネットワーキング・ネットワーキングの意義、目的、方法、留意点 ・セーフティネットの構築とネットワーキング ・家族や住民、サービス提供者間のネットワーキング ・重層的な範囲（ミクロ・メゾ・マクロ）におけるネットワーキング ・多様な分野の支援機関とのネットワーキング	複雑で多様な課題をかかえたクライエントシステムを支援する際、そのニーズに対応した社会資源とつなぐ役割を果たすための一つの方法として「ネットワーキング」があることを学びましょう。さまざまな対象との間でのネットワークの特徴を確認してください。
7	ネットワークの形成② （第３章）	１コーディネーション ・コーディネーションの意義、目的、方法、留意点	複雑で多様な課題をかかえたクライエントシステムを支援する際、ネットワークを形成しそれらが有機的に働くためには「コーディネーション」の技術が必要であることを学びましょう。
8	ソーシャルワークに関連する技法①	１ネゴシエーション ・ネゴシエーションの意義、目的、方法、留意点	ミクロ・メゾ・マクロ、それぞれのレベルにおいて、さまざまな人や環境に働きかける上での必要とされる技法のうち、交渉の総体として「ネゴシエーション」の技法を学びます。
9	ソーシャルワークに関連する技法②	２ コンフリクト・レゾリューションの意義、目的、方法、留意点	ミクロ・メゾ・マクロ、それぞれのレベルにおいて、さまざまな人や環境に働きかける上での必要とされる技法のうち、紛争や葛藤状況を解決するための技法としての「コンフリクト・レゾリューション」の技法を学びます。
10	ソーシャルワークに関連する技法③	３ソーシャル・マーケティングの意義、目的、方法、留意点	ミクロ・メゾ・マクロ、それぞれのレベルにおいて、さまざまな人や環境に働きかける上での必要とされる技法のうち、社会的課題をビジネスの手法で捉える「ソーシャル・マーケティング」の技法について学びます。
11	事例研究① （第６章）	２事例検討、事例研究 ・事例検討、事例研究の意義、目的、方法	「ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ」で学んだ事例研究や事例検討について、再度確認してください。
12	事例研究② （第１章）	１総合的かつ包括的な支援の考え方 ・多様化、複雑化した生活課題への対応 ・今日的な地域福祉課題への対応 ・分野、領域を横断する支援	地域共生社会の実現に向けて、総合的で包括的な支援とは何かを事例を通して理解します。具体的な手法や技法、どのような価値観が事例の課題解決につながったのかを考えながら学びましょう。
13	事例研究③ （第１章）	１地域支援の実際 ・地域が抱える課題 ・多機関協働 ・地域住民との協働 ・地域アセスメント	地域共生社会の実現に向けて、総合的で包括的な支援とは何かを事例を通して理解します。具体的な手法や技法、どのような価値観が事例の課題解決につながったのかを考えながら学びましょう。
14	事例研究④ （第１章）	２非常時や災害時支援の実際 ・非常時や災害時の生活課題 ・非常時や災害時における支援の目的、方法、留意点	地域共生社会の実現に向けて、総合的で包括的な支援とは何かを事例を通して理解します。具体的な手法や技法、どのような価値観が事例の課題解決につながったのかを考えながら学びましょう。

15	振り返りとまとめ	15 回の学びを通じて自己の学びの深度を確認する	各回のキーワードとなることを抽出し、自分のことばで説明できるかどうか、確認してみてください。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	社会資源活用・調整・開発について、その意義、必要性、方法についてまとめてください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

社会資源活用・調整・開発について、その意義、必要性、方法についてまとめてください。

【1 単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

【2 単位めアドバイス】

テキストの第 3 章及び第 4 章を参考にしながら、レポート課題に取り組んでください。

科目修了試験

■評価基準

1）出題された課題に対して、ポイントを押さえて論述されているかどうか
2）テキストや参考文献、レポート作成で学んだことが理解され、説明されていること
3）論旨がとおっていること
4）規程の分量を満たしていること